

雇用促進・就労定着
プロジェクト

令和3年度年度総括

結成から3年目を迎えたプロジェクトは、今年度4本の柱を軸に方針を立て活動を行ってまいりました。コロナによる活動制限が続く中ではありましたが、【外部へ働きかける活動】が加速した年になりました。

プロジェクト内での活動においては、直接障がいのある方とかかわる担当者が学習会に参加するなど、障がい者雇用に関わる人材育成を進める動きがみられました。また、企業同士が悩みや意見を交換できる場としてプロジェクトが成熟し、信頼のおけるメンバー同士、率直に話し合える関係性が作られています。

活動の振り返り

15名・延べ20名参加 就職実績7名!!

情報発信

- ・プロジェクトスタイル実習
- ・仕事の魅力発見フェス

教育

- ・テーマ別学習会

提言

- ・福祉との意見交換会

組織拡大

- ・3社の新規参加



日程	内容
R3.5.24	年度総会
R3.8.4	8月例会
R3.9.6	テーマ別学習会① 「社会性」
R3.9.16	テーマ別学習会② 「雇用管理①」
R3.9.24	テーマ別学習会③ 「社員の成長①」
R3.10.22	テーマ別学習会④ 「社員の成長②」
R3.10.29	テーマ別学習会⑤ 「雇用管理②」
R3.11.30	11月例会
R3.12.17	求職者に向けた企業説明会と 職業体験と企業相談 (仕事の魅力発見フェス)
R4.1.13	福祉との意見交換会
R4.3.15	年度総括

次年度に向けて

活動の振り返りを通し、見えてきた課題と課題解決に向けた具体案の検討がされました

	求職者・支援員への働きかけ	雇用相談の対応	プロジェクト活動の周知	実習の活用
課題	フェスは求職者・支援員双方から好評をいただいているが、応募・就職への具体的な動きがなく、企業が感じたほどの期待感が形にならなかった	地域の障がい者雇用は、質・量が共に発展していく必要がある	福祉事業所が企業に対してハードルを高く感じていることがわかった	自事業所の雇用定着に向けて、具体的にマッチングの検討ができる機会が増えるといよい
具体策	◆ フェスの参加者が、モチベーションを保って次のステップに踏み出せるために、プロジェクトのイベント開催の時期を再検討する ◆ フェスの体験内容も含め、雇用後の業務が具体的にイメージできるように内容を工夫する	雇用未達成の企業に対して、プロジェクト企業が雇用のノウハウをアドバイスできる様な機会づくりや体制を整える	福祉事業所や雇用を検討している企業にプロジェクトの活動を周知できるよう、地域に発信するため通信などの作成	実習対象者の業務マッチングを検討するために、プロジェクトスタイル実習の状況や課題を共有し、実習を段階的に活用するなどプロジェクト内の連携の仕組みを整える

上記の活動を通し、地域の障がい者雇用の促進のために必要なことを検討した1年となりました。プロジェクトスタイルで実習の場の提供をする中で、福祉サービスの支援員の方と直接関わる機会が持てたことは今後の活動を考える良い機会になりました。また、受け入れをする中で「なぜこの人が就職できないのか…」という率直な疑問も生まれました。障がい者雇用の一番の課題は、就職後の定着ができることだと企業プロジェクトは考えています。その中で、**対象者の課題を企業と共有することで、支援から連動した人材育成をすることもできるのではないのか**という考えが強くなっています。プロジェクトの活動が地域への社会貢献活動にシフトチェンジをしてきた背景には、地域の仕事の担い手となる人材の不足や人手不足による地域産業の衰退への懸念があります。福祉サービスからのプロジェクトスタイルへの依頼はこの時期も次々と来ています。企業・福祉双方が連携し、人材育成をできる仕組みが作られることで、雇用後の就労定着・定着支援が機能するのではないかと期待しています。